

2026（令和8）年度 教養学部比較文化学科 一般選抜（中期）講評

I

問題文の主旨：山本真希さんは、パレスチナのガザ地区とヨルダン川西岸地区の女性たちに依頼し、日本の着物の帯にパレスチナの刺繍を入れる取り組みを続けている。その帯が、2025年大阪・関西万博で開催されたパレスチナの「ナショナルデー」で披露された。

問1

語彙と文法を理解できているかどうかで成否が分かれた。接続詞 Since は、ここでは「～のため」という理由の意味で訳す。「～以来」と訳した解答は減点した。

the expo は、ここでは「万博」という意味である。the world's fair も expo と同じ「万博」の意味で使われているが、「世界の公正」や「世界の平等」と誤訳した答案が散見された。

present は、ここでは「紹介する」という意味であり、「代表する」と訳した解答は減点した。

National Day は、ここでは大阪・関西万博が開催したイベントの名前であり、公式サイトの記事に従い「ナショナルデー」と訳す。「建国記念日」ではない。

問2

正答率が高かった。

問3

ア) embroidery を刺繍と正しく訳せている解答が非常に少なく、装飾と訳した解答が多かった。

イ) 正答率は高かったが、「誰に」「どのような」という2点を正確に記述していない解答は減点した。また、a source of income は「収入源」と訳せている解答が多かった。West Bank を西岸ではなく「ウエストバンク」と書いている解答が数件あった。

問4

ア) 下線部に続く“with limited materials entering Gaza and the women's lives at risk”という状況の説明を求めている。日本語では「限られた物資しか（ガザに）入らないなかで、女性の命が危険に晒されている」となる。解答のポイントは、まず付帯状況の“with ... entering”が適切に訳されていることであり、比較的多くの受験生が理解できていた。

イ) “the West Bank region”に続く箇所の説明を求めている。解答のポイントは、まず“... the Israeli military has tightened restrictions on movement”が適切に訳されていることであるが、「移動制限を強化する」と適切に解答した答案は多くなかった。多かった誤答は、“movement”を「運動」と訳出したものである。つぎに、“preventing women from reaching their workshops and procuring fabric, yarn and other materials”について“preventing women from reaching”の訳出はおおむねできていたが、“workshops”を「ワークショップ（の準備／をおこなう）」とした誤訳が目立った。また、yarn（糸）を訳せた解答はわずかであった。

問5

正答率が高かった。

問6

助動詞 will の過去形 would を「世界」と訳したり、Palestinians 「パレスチナ人」を「パキスタン人」と訳したりした解答が見られた。さらに、be sorry for を「謝意を示す」と逆の意味に訳した解答も見られた。

また、respect はここでは「尊重する」の意味だが、「リスペクトする」とカタカナで訳した解答は減点した。

最後に、long-standing culture 「長年の文化」を「対立の文化」、又は「対立の歴史」と誤訳した解答が見られた。

II

問1

本問は、①リベリアはアメリカ合衆国との独特の歴史的関係の影響により英語を公用語としている一方、②トランプ大統領は（リベリア大統領との会談において）そのことを失念していた可能性がある、ということを出出できるかを問う問題である。①についてはおおむねよく訳せていたが、“miss”の意味を取り違えた解答が一定数見られた。また、“historical ties”について、tie の意味は理解しているものの、文脈に即した適切な訳語をあてられていない答案が目立った。さらに、少数ではあるが“Liberians”が固有名詞であることを理解していない誤答も見られた。

問2

本問は、リベリアにおけるアメリカ合衆国の影響を読み取れているかを問う問題である。全体的な正答率は高かったが、b)、c)、e) については不正解も少なくなかった。

問3

正しい前置詞を問う問題であり、難易度は特段高くはないが、正答率は低かった。とくに、イ) は to、ウ) は on とした誤答が非常に多かった。

問4

リベリアの女性元大統領サーリーフの経歴についての問題であるが、正答率は高かった。

問5

ファイアストーン社のゴム農園における人権侵害について、国連の報告書に記載された事例である、①農園労働者の危険な労働環境、②適切・平等な賃金の欠如、③ストライキの権利の欠如、④児童労働の横行が本問で解答すべき内容となる。①、②、④はおおむね解答できていたが、②については賃金の公正と平等のどちらか片方しか触れていない解答、④については“frequently”という要素に触れていない解答は減点とした。③については、ストライキの権利あるいは争議権と正確に訳した答案も見られた一方、労働争議や労働運動とやや広い意味にとれる訳も多く見られ、それらは減点とした。

問 6

本問は、リベリアで話される英語はアメリカ英語と同じイントネーションを持っており、アフリカ大陸の他の国で話される英語とは異なるということを読み取れているかどうかを問う問題である。全体的には正確には訳されている解答が多かったものの、完全な解答は少なかった。とくに、“happens to”を「必然である」、「突然起こる」、「巻き起こる」などと誤訳した解答が多く見られた。また、“the continent”を訳し忘れたり、“content”、“context”と間違えたと思われる解答も目立った。